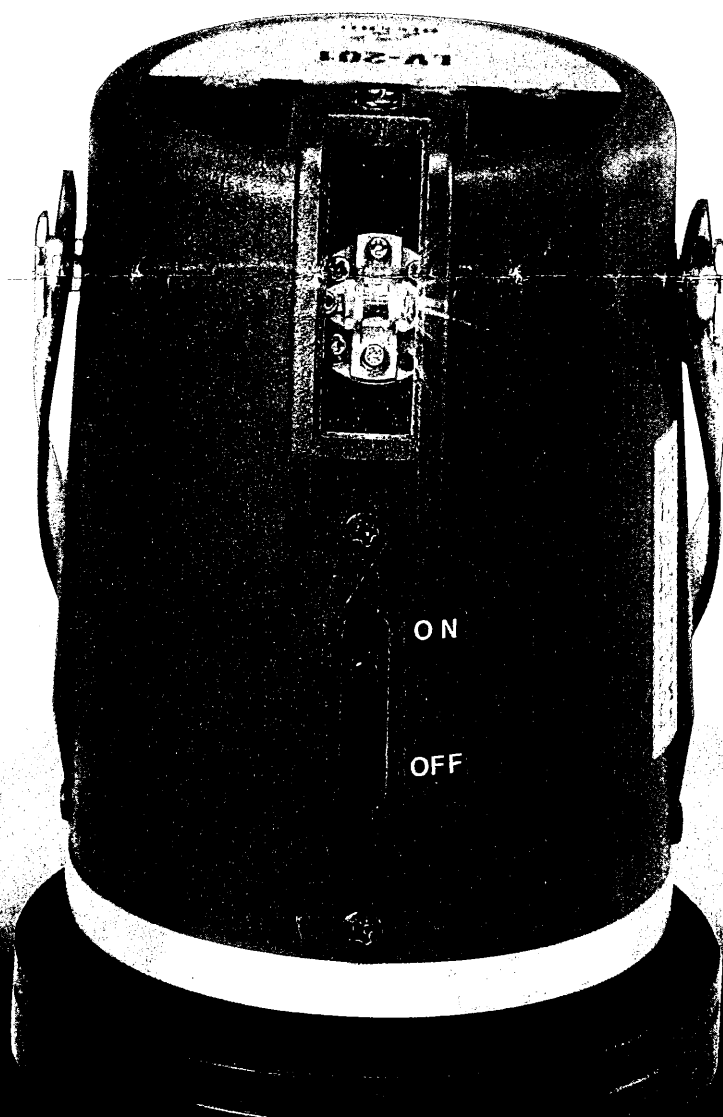


取扱説明書
レーザーポイント

たち一発
LV-201



ニッショー機器株式会社

この度はニッショー機器(株)レーザーポイント“たち一発”をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

“たち一発”は現場での、たち墨・通り芯出し作業のスピード化と小型・軽量化を極限まで追及した、ニュータイプの、半導体レーザー発振システムです。よりよき作業をしていただくために、説明書をよく読んでからご使用下さい。

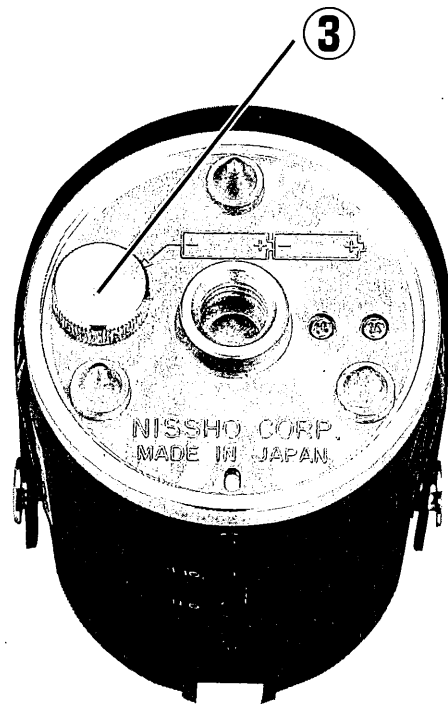
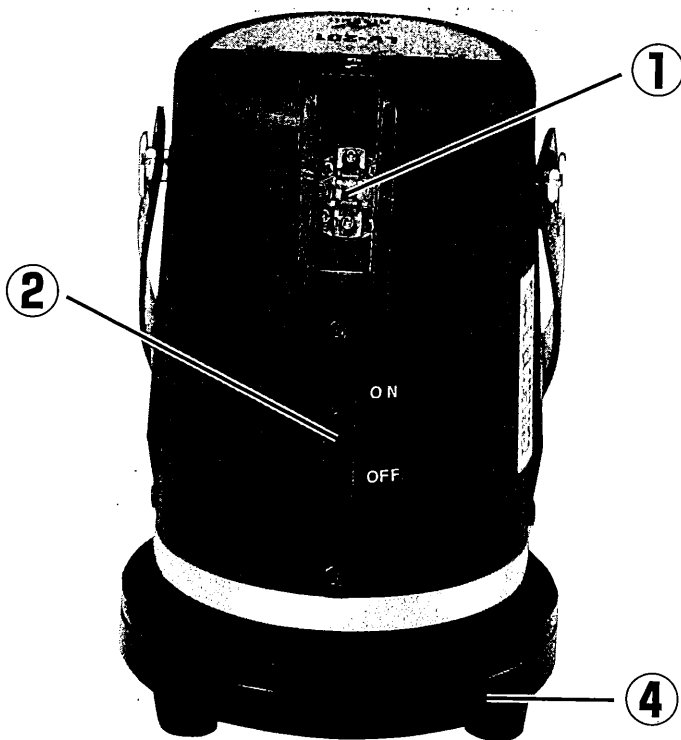
たち一発 LV-201 各部名称

①レーザー光線出口

③電池収納部

②スイッチ兼ストッパー

④精密スライド回転板



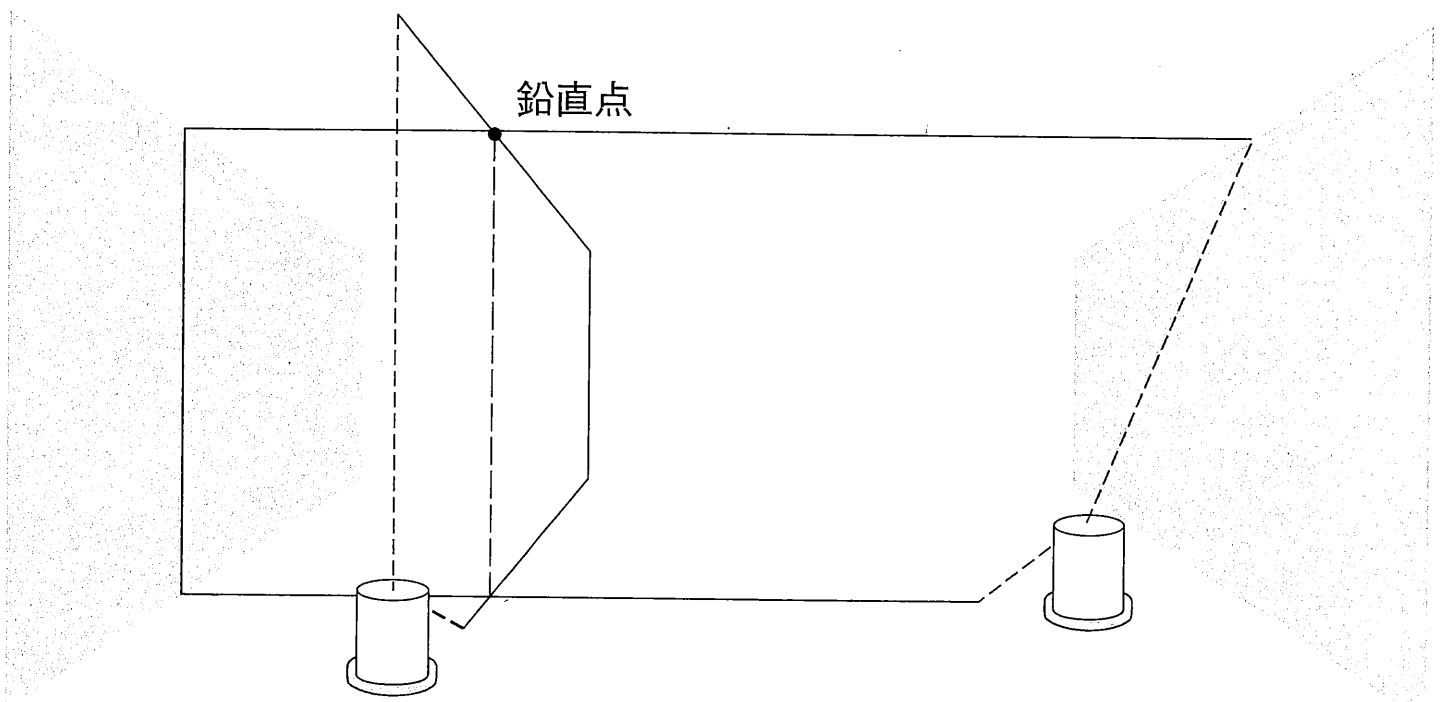
(附属品)

単三アルカリ乾電池2本、レーザーメガネ、
L型アクリル板、精密スライド回転板(360°回転)

ご使用方法

※ご使用前には必ず下記点検確認方法に基づき点検確認作業を行って下さい。

- ① 本体を収納ケースより取り出します。
- ② 本体裏面の電池収納ネジをはずし、本体底面の表示のように⊕、⊖の極性に注意して電池を入れ、電池収納ネジをしっかりと締めて下さい。
(⊕、⊖が正しくないと、点灯しません。)
- ③ 本体前面のレーザー光線出口のスイッチを上にはげると、電源がONとなり鉛直機構のロックが解除され、レーザー光線が出ます。
測定する壁面より2～3m離し、本体を床面において使用して下さい。
本体は3°以内の傾斜になるように置いて下さい。
- ④ 地墨の延長として、たち墨・通り芯を測定する時、本体を壁面より2～3m離して地墨上に置き、地墨とレーザー光線が合うように本体を動かし、たち墨・通り芯の測定を片側ずつ行って下さい。また、付属品の精密スライド回転板に本体をのせて使用すると簡単に地墨にあわせることができます。
- ⑤ この時、付属品の「L型アクリル板」を、本体より約60cm位の所へ置くと、地墨上のレーザー光線が見えやすくなります。
また、レーザー光線が見えにくいときは、「レーザーメガネ」をかけて見て下さい。レーザー光線がクッキリと見ることができます。
- ⑥ スイッチを下に下げると、電源はOFFになり、鉛直機構がロックされます。



2台使うと簡単に鉛直点を出すことができます。

点検確認方法

点検確認方法

- ※ 天井が2～3mの高さで、振動のない場所を選んで下さい。
- ① 壁面に下げ振りをぶら下げ、静止したのち本体を2～3m離してセットします。
 - ② 下げ振りの糸の上に、本体からのレーザー光線を合わせ、その位置が許容範囲内ならOKです。
 - ③ 許容範囲を越えていたらお買い求めになった代理店へ調整検定にお出し下さい。

ご使用上の注意

- ① 本体が3°以上傾いている状態では、正しく測定できません。
- ② レーザー光線が薄い時は電池が切れかかっています。2本同時に取り替えて下さい。この時、⊕、⊖の極性にご注意下さい。(逆に入れると点灯しません。)
- ③ 電池を変えてもレーザー光線が薄かったり、ボヤけたりするときは、綿棒でガラスレンズを清掃して下さい。
- ④ 本体を持ち運ぶ時には、必ずスイッチを下に下げてOFFの状態にして下さい。
- ⑤ レーザーポイント“たち一発”LV-201は、レーザー光を使用しています。人体には影響はありませんが、レーザー光出口をのぞいたり、人に向けたりしないでください。(安全基準 クラス2レーザー)
- ⑥ レーザーポイント“たち一発”LV-201は精密測定器です。落したりショックを与えないでください。また、ご使用の前には必ず上記点検方法に基づき点検確認作業を行って下さい。
- ⑦ 長期間ご使用にならないときは、電池を2本とも外しておいてください。

仕様

使用レーザー	可視光半導体レーザー 635nm
寿命	約20,000時間
出力	<1mW クラス2
自動補正範囲	±3度
使用距離範囲	半径5m
線径	5mで約1.5mm以下
指示方式	ジンバル機構
制動方式	磁気制動方式
精度	5mで±1mm
電源	単三アルカリ乾電池2本
連続使用時間	アルカリ乾電池使用時、連続約30時間
重量	本体 550g ケース 500g
本体寸法	155mmH 100mmφ
付属品	L型アクリル板、スライド回転板、レーザーメガネ